

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500374		
法人名	福田農機 株式会社		
事業所名	グループホーム福福		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町古川534		
自己評価作成日	平成27年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3373500374-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだからこそ出来る一人ひとりに寄り添い傾聴し受容する個別介護を行い、問題が起これば常に話し合い、考え実行する中でその方に合った介護を探り出し提供する。外部研修などに積極的に参加し持ち帰り、施設内研修を行う事で、お互いのスキルを高め、より良い介護が提供出来るよう心掛けています。近くには、保育園・小学校などもあり、保育園児が芋の苗植えを利用者に教えてもらいながら行ったり、小学4年生には認知症の勉強会に出向き、理解を深めてもらったうえで、来訪し昔遊びなどを教えてもらっています。今年で4年目になりました。ご近所の方に季節の野菜や花などをいただくことも度々あります。地域の夏・秋まつりには必ず参加させてもらい地域の一員であることを皆で実感させてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉協議会主導の小学生の認知症教育の一端を担っている。職員が南小学校に出向き、4年生に認知症についての話を行い、その後、その児童がホームに来訪し、利用者の肩たたきやゲームで交流している。2年後には卒業写真を持って来訪し、感謝の言葉を伝えて中学に進級し、中学生として更に活動が続いていると聞いた。この認知症教育の果たす役割は大きく期待されている所である。夏祭りには利用者全員が浴衣を着せてもらい、「福福小町でございます」と華やぐ姿を「たより」で紹介している。利用者に喜んでもらえる「大好き」を職員がよく実現させて利用者の笑顔が一杯のホームである。ここ1年位でホームの職員が若返り、ホーム長を筆頭に体制が強化され、研修や実践にも工夫が講じられるようになってきた。利用者の中に常に職員の顔がある雰囲気にも好感が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、地域と共に暮らす事業所作りを大切に、理念を作りました。 理念は、事業所の玄関と、事務所に掲げ、毎日の申し送り時に皆で読み上げ業務に入っています。	「人と人との和、地域に親しまれ、地域に密着したサービスの提供」を理念として掲げ、昨年就任した新管理者は若手職員をよく率いており、寄り添い、傾聴し、受容する個別ケアに力を入れたいと抱負を語っている。利用者は、職員に信頼を寄せ、明るく元気に暮らしているホームを見ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様には大変お世話になっており、日頃の挨拶・会話や、地域住民の方にホームでの行事などに招待しています。また、地域の行事等にも参加させていただき交流を深めています。	地域の保育園、小学校との行き来は定着している。演芸ボラの来訪や近隣の住民が交代で運営推進会議に出席している。又、本社(農機具店)がこの地域の中にあるので、社長とは日常的に交流があり、介護相談なども持ちかけられている。小学校4年生の認知症教育はマスコミにも取り上げられ、地域にも深く理解されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生4年生を対象に、認知症についての勉強会を小学校に出向き行っている。また、児童が勉強会後にホームに来荘し利用者との交流を行っている。2ヶ月に一度、『福福だより』を発行しホームの様子をご家族・近隣の方・他施設・待機者などに配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	13名の委員で福福委員会と名付け取り組んでいます。ホームでの生活・行事などスライドやビデオなどでも紹介しています。会議後は、ホーム内の生活とふれあいを大切に、行事を盛り込む様にしてしています。	町会議員、区長、民生委員、愛育委員、保育園長、老人クラブ会長、近所の住民、町高齢者福祉施設協議会、町役場・包括職員、家族代表、代表者、ホーム職員13人の他、職種の人の参加により情報交換や勉強会形式で実施している。メンバーには近隣住民が交代制で参加しているので、地域にも広くホームが理解されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町福祉課の職員さんも、よくしてくださるので、困った時・疑問に思った時は遠慮なく相談させていただきます。	行政関係者は運営推進会議に毎回出席しているので、ホームを十分に理解してもらっており、相談事等スムーズに行えている。社会福祉協議会が主導している小学校4年生の認知症教育の一環としてホームとしての役割を担い、合成とホーム相互の連携がよく機能している実例である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員”身体拘束はしない”ということの実践に取り組んでいます。夜間は防犯のため施錠を行いますが、日中は鍵を掛けず、いつでも出入りができるようにしています。虐待・拘束委員会を立ち上げ月に一度話し合いをしています。	虐待、身体拘束防止委員会を設け、月1回勉強会を開いている。「かわいい」と言う言葉は利用者にかけても良い言葉か…。…があるがどうすれば良いのか等々、毎回活発な質問、回答を会議録に整理している。新人職員が多い中で、熱心に取り組んでいる成果は、利用者が職員を信頼し、明るく暮らしている訪問日の様子からも歴然と見えてきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがないかどうか、毎月のカンファレンス時に確認しています。職員は、虐待のような言動がないか気を配り、お互いに声を掛け合うようにしています。管理者は適切な指導をするよう心掛けています。また、虐待防止についての研修会にも参加し学ばせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し、個々の必要性を問いながら関係機関と話し合い、支援できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約・重要事項説明等、詳細に分かりやすく時間をかけて説明させていただいています。 また、入居後の生活について、疑問点等あれば、その都度、相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族からの申し出に対して、柔軟に対応しています。玄関に“ご意見箱”を設置しています。御家族が来荘された時はスタッフの方から積極的に話しかけ、話しやすい環境を作っています。困ったこと・ご要望等を話されることもあり、前向きに受け止め、対応しています。	家族の来訪が多く、職員はこの機会を大切に捉え、意見や意向を聞いている。利用者の暮らしぶりを理解してもらおうと、暮らしの写真満載の「福福たより」を毎月届けて講評を得ている。運営推進会議の公の場でも発信できる機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度各棟合同のリーダー会議を本社で社長・事務長も含め行っています。各棟職員の要望・様子なども伝え、解決出来るよう十分話し合っています。	管理者と職員はケアカンファレンスの中で運営に関する事も併せて意見交換を行い、重要案件を管理者が毎月1回のリーダー会議(社長、事務長、両棟責任者)に提出するシステム作りがある。1年未満の新入職員は、「何でも言いやすいし、先輩職員がよく指導してくれる」と笑顔で話してくれた。目標達成計画にも掲げ実践できていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの小さな気付きなどを褒め、指導し各職員が向上心を持ってやりがいのある職場環境に努めています。また、スタッフに声を掛け、日頃の思いを聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修を取り入れ、職員の自己研鑽を積んでもらうことと、資格取得しやすい職場作りにも努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内施設協議会を通じ、今後、管理者・職員の交流を深めていきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の不安を最小限にするよう、家族・施設からの情報を基にケア行うことが多いです。事前に自宅等を訪問し、本人といろいろ話し、信頼関係がスムーズに構築できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時前に、十分家族と話し合い思いを聞き、本人がホームで安心して生活できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況・生活歴や、現在のお気持ち等を把握し、それを職員が共有し、まずは早くホームに慣れていただける様話し合い、本人に合ったケアを考え、初期対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『出来ること』を見極め提供しています。職員が間に入り、皆で協力して出来るよう、援助させていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お手紙で日頃の様子や、ケアの内容などを伝え本人の状態を共有しています。外出へ、ご家族参加で出掛けたり、電話で本人と話をされたりし、ご家族と一緒に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅・懐かしい地域に、ドライブを兼ねて時折外出しています。身内の方からの手紙や、旧友などが来荘された時は職員一同、丁寧に迎え、お帰りの際は本人と一緒に玄関までお送りし、また来荘いただけるような環境作りに努めています。	親戚、縁者の訪問が多くあり、職員は茶菓を提供し、話しやすい場所を提供する等、再会継続を意識した支援を行っている。利用者は地域の人が多く、両棟に馴染みの関係もあるので互いの交流が出来ている。毎月のホームだよりで日常の暮らしの様子を手紙を添えて発信し、家族との絆を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席など、気の合わない方同士を隣にしない様、場所を考えながら座っていただいておりますが、基本、自由に席を選べる様にしている為、仕方なく隣になった場合は必ず職員が間に入りコミュニケーションが取れ、孤立しない様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方で、他施設等に移られた方等には、機会があれば訪ねます。 また、御家族に会う機会があれば、現在のご様子等をお尋ねします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの”思い”を尊重しています。居室等で本人の思いをしっかりと聴かせていただくこともあり、可能なことは即対応しています。カンファレンスで情報共有しています。	「利用者が何を考え、求め、どうありたいと願うか、その心を見付ける力を持つ職員でいたい」と本年の「福福たより」新年号で述べている通り、よく寄り添い、見守り、コミュニケーションが来ている。訪問日に、一人の利用者が事務室で職員と一対一で長い時間話を聞いてもらっている姿を見かけた。把握したそれぞれの思いをプランに反映させる努力を期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の本人との会話の中で聴き取ったり、アセスメントを行い、本人の状況を把握できるよう努めています。 また、ご家族からの情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察・記録し、状態を把握しています。早期に状態悪化を発見し、担当医に報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、まずはホームに慣れていただくことをプラン作成し、一ヵ月後、本人・家族と話し合った内容を基に、本プランを作成。その後は6ヶ月ごとにアセスメントを行い、本人の心身の変化、残存能力の確認等を行い、本人の生活支援に即した介護計画が作成できるよう努めています。本人・家族には、その都度意見を求めています。	職員の担当制を敷き、担当職員が利用者を把握し、介護計画作成担当者に情報を提供し、ケアカンファレンスしてプランを作成している。日常記録から個々の現状を見直し、本人、家族の意向を明記し、利用者本人のプランになることを期待したい。	介護計画書はケアマネージャーが担当職員が作成する経過記録とカンファレンスを基に作成しているが、ケアマネージャーが現場に出る事は少ないと聞いている。このようなシステムの中にあっては、担当職員とケアマネージャーそして管理者と職員全員がケアマネジメントへの参加意識を高められるよう期待しておきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践や気づき・本人の発言等は、日常記録に記録し、職員間で情報を共有しています。 それを基に、カンファレンス時で話し合い、介護計画を見直す資料となっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	”GHだからこそ出来る”ことを大切にしていますが、時間と人手の問題で実現できていないことがあるのも事実です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしが地域との協働体で、馴染みの生活ができ安心・安全な暮らしが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切にしています。受診時は、原則、家族に同行していただいています。	二つの提携医と専門歯科医との提携がある。二週に一回の往診がある。必要に応じて提携医が協力病院への紹介手続きなどを行い、提携医と協力病院の連携が強力なので、利用者、家族、ホームは安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くの訪問看護ステーションと医療連携を採っています。 "4回/月"の訪問時と、必要時にいつでも連絡し相談できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、担当の看護師やSWと連絡を取り合い、早期に退院できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、入居時に当ホームで「出来ること 出来ないこと」の説明を行っています。看取りもご家族の希望があれば行ってありますが、当ホームで対応困難な場合は、ご家族と話し合いを持ち、他施設等も紹介しています。	ホームの方針として、医療、家族、包括支援センターと連携を図りながら、本人、家族にとって最善の方向を話し合いながら、現時点で出来ることを行っている。昨年、107歳の利用者を家族の要請で協力医の熱心な支援を得ながらホームで看取った事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、緊急時は管理者にすぐ連絡をし指示を受けるようにしており、場合によっては担当医に連絡し、来荘してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを備えています。 防火管理者・消防関係者を中心に、近所の方々にもお願いして、避難訓練等を年2回実施しています。	ホームの両側に用水路があり、過去に氾濫した経緯もあるので、避難場所を設定する等、防災対策は運営推進会議の中でもよく討議され、万全を期している。今後は、地震の際の転倒物対策なども含め、あらゆる災害を想定した対策を期待するところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今現在の課題でありカンファレンス時、常に話し合っており、虐待・拘束委員会でも話し合い対策を考えている。	担当職員とその利用者と言う関係の中で、戯れ、冗談を交わし、大笑いの一時があったが、その中でも利用者さんとしての尊厳は損なわない温かさがあった。虐待、身体拘束防止委員会の中でも重要案件として毎回話し合われている。トイレ介助の声掛けや動作にも尊厳を重んじている職員の姿勢を見ることが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをしっかり聞き受容する様努めています。『どうしたいのか』を聞き出し一度はやっていただいてその後援助する様になっています。そうする事で言い易い環境作りに勤めています。また、表情・仕草・行動からも気付けるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず、何をすることも伺いを立ててから介助する様に心掛けています。出来る限り希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿った服装や、お化粧品等ができるよう支援したり、昔の写真などがあれば、その雰囲気でおしゃれなどを提供しています。理容・美容に出かけることもありますし、定期的に理容師さんの訪問もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒に行い、一緒に食事をする様にしています。食事中にも味や食べたいものを聞き会話も楽しんでいます。後片付けも一緒に行っています。	昨年までは服飾の一部を外食業者に依頼していたが、職員数の充実も実現し、現在はホームで当番職員が調理しているので、利用者の希望食にも対応できて喜ばれている。このホームでは一名を除き全員が自立で食事が出来るので、職員と一緒に野菜の話を持ち出しながら談笑しながら進められていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を考えながら、バランスの採れた食事を心掛けています。水分量について、水分量を記録し、脱水にならないよう、注意しています。嚥下状態で、軟飯や刻み食・水分にトロミをつける等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・義歯の洗浄・うがいを、見守り・必要に応じて介助しています。義歯の方は、夜間、洗浄剤使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の意思でトイレに行ける様、見守っています。なかなか行かない方には声掛けを行いトイレを促しています。オシメの方のみ時間でパット交換を行っています。	二名を除き、殆どどの利用者は自立排泄が出来ているので、積極的排泄指導は行っていないと聞いた。さり気ない声掛けを見る程度で、ごく自然の行為を見守っている実態があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因になる、“食物繊維不足” “水分不足” “運動不足” “精神的ストレス”等を注意し便秘防止に日々努めています。 また、医療機関とも連携し、服薬等で便秘予防されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外、毎日できるようにしていますが希望があったり、必要時にはいつでも入れるようにしています。本人の希望やタイミングで入浴していただけるようにしています。	日曜日を除き月曜日から土曜日までは自由に入浴することができる。リフト付きの浴槽を完備しているため、危険回避を配慮した対応に利用者は安心して楽しい入浴が実現している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にしていただいています。夜間、消灯21時となっていますが、希望時に応じ好きな時間に入眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用について理解しています。症状の変化についても注意しています。 服用している薬のファイルもあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみ・食器拭き・食事作りなど、今まで行ってきた家事を中心に、毎日行っています。散歩・外出・庭でのランチ、おやつなど変化のある空間作りを心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外出したい」と希望あれば、希望が叶えられるよう、柔軟にホーム外に散歩やドライブ・近所のスーパー等に出かけています。ご家族との外出もされています。	ホームは田園の中にあり、見通しも十分に確保されているので、気軽に散歩を楽しめる環境にある。ホームの敷地内は広く、快適に整備され、ベンチも備えてある。手作り弁当を広げて楽しむこともある。近回りのドライブや鳥取、姫路あたりへの小旅行を楽しんでいる記録写真を見ることが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持され、どこに置いたか分からなくなり、紛失されてしまうことがあり、原則、お金の所持はお断りしています。ただ、自分で金銭管理ができる方については、自分で管理してもらい、買い物時には支払っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望あれば、状態を見て実施しています。本人から手紙までは書いていませんが、年賀状は書くよう進めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花、入居者・職員で作成した壁掛けを飾っています。温度調節など入居者が過ごしやすいよう、その都度調節しています。生活音・臭い・ブラインドの位置等にも配慮しています。	一段高い畳の部分を撤去し、ソファコーナーを拡張して活動しやすくゆったりとした雰囲気があった。床は全面すべり止めの素材を使用し、転倒防止に配慮している。壁面に、全盲の利用者の俳句を職員が色紙に絵を添えて掲示してあるのがよい雰囲気を醸していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ポーチや芝生の上で思い思いのお話しが楽しめるよう配慮しています。リビングでもひとり好きなことが没頭できる配慮の工夫もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、家族写真等、本人が馴染みの物を置くよう、ご家族にご協力いただいています。	半間の物置空間があり、加湿器、ベッド、手洗いが設置してある。各自、小箆笥など馴染みの物を持ち込み、壁にはそれぞれの思い出の写真等で自分らしさを表現して落ち着いた居室が実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや椅子の置く位置を工夫しています。また、部屋・トイレ・風呂場等には、解りやすく表示し、自分で判断できるようにしています。		